

玉山 (旧新高山) の植物帯

高橋良平

(香川大学教育学部生物学教室)

Plant zone of Mt. Gyokuzan (Mt. Niitaka)

Ryohei TAKAHASHI

(Biological Laboratory, Faculty of Education, Kagawa University)

1970年7月20日～8月22日迄約1ヶ月にわたり台湾各地の植物採集を実施し、その折台湾山岳協会の協力を得て玉山の山頂をきわめることができ、玉山の垂直分布の変化による植物景観に深い感銘をうけたのでその概要を報告したいと思う。当調査期間が僅か1週間許りであるため不十分な点が多々あることを付記したい。玉山登山の根拠地は台湾西部平坦地の略中央に位置している嘉義で、このすぐ近くに北回帰線が通っているため、この周辺一帯は熱帯の様相を顕著に現している。ここから次第に玉山に向って標高が昇るにつれて植物景観が亜熱帯→暖帯→温帯→亜寒帯→寒帯へと規則正しく変化して之を水平分布にひきのばすと熱帯の台湾から琉球列島、日本列島等を通り過ぎて樺太南部迄の範囲を含むことになり、従って日本の各地にみうけられる植物(移入したものも含んで)やこれにごく近縁のものが数多く認められた。以下各帯の植物景観をあげると

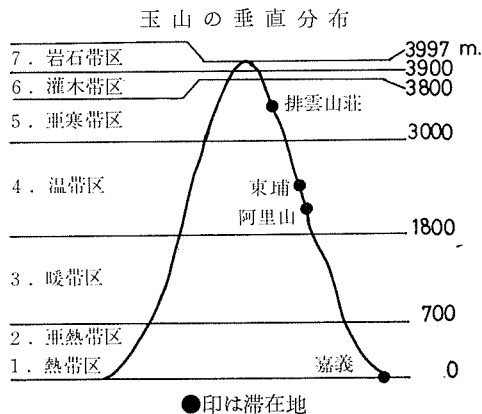
1. 熱帯区 (嘉義周辺の平坦地)

この一帯は人口密度が高くその殆んどが住宅地と農耕地として利用されているために次にあげるような各種の熱帯特有の栽培植物が各地でみうけられた。



キャッサバ栽培 (根からタピオカ澱粉をとる)

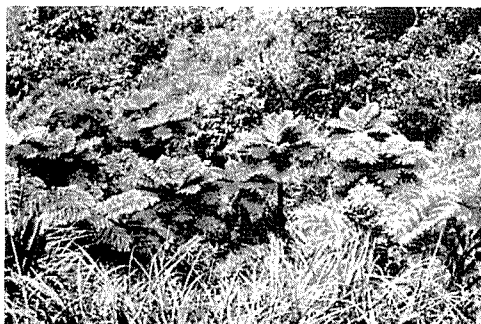
- マンゴウ *Mangifera indica* L.
- リュウガン *Euphoria Longana* Lam.
- レンブ *Eugenia javanica* Lam.
- ゴレンシ *Averrhoa Carambola* L.
- キャッサバ *Manihot utilissima* Pohl.
- ホウオウボク *Delonix regia* Raf.
- ピンロウ *Areca Catechu* L.
- ダイオウヤシ *Roystonea regia* Cook.
- ココヤシ *Cocos nucifera* L.
- タガヤサン *Cassia siamea* Lam.
- バナナ *Musa sapientum* L.
- その他各種のクロトン類と熱帯性柑橘類.



2. 亜熱帯区 (平坦地～700m)

山麓地ではリュウガン、チークノキ *Tectona gra-*

ndis L., ショウショウソウ *Euphorbia heterophylla* L. 等の栽植が目をはき、これから更に昇るにつれて車窓の両側にガジュマル *Ficus retusa* L., アコウ *Ficus superba* Miq. 等の各種の榕樹の類が生い茂りその内にオオタニワタリ *Neottopteris rigida* Fee. のような着生植物や蔓植物が生育して亜熱帯特有のうっそうとした林相を呈し、又谷間には木生した類のヘゴ類が長大な葉を拡げており、その間にシチク *Ischurochloa stenostachya* Nak., リョクチク *Bambusa*



タイワンヘゴ *Cyathea taiwaniana*. Nak.

Oldhami Munro, マチク *Dendrocalamus latiflorus* Munro 等の竹林が目につき、又所々の谷間には大規模のニガウリ(ツルレイシ) *Momordia Charantia* L. の集団栽培が行われていた。

3. 暖帯区 (700m~1800m)

この一帯は日本と同様に常緑広葉樹が主体をしめ各種のカシ類、シイ類やクスノキ *Cinnamomum Camp-hora* Sieb., タブノキ *Machilus Thunbergii* Sieb. et Zucc. 等のクスノキ科の巨木が目につきその間に日本統治時代に移入したモウソウチク *Phyllostachys pubescens* Mazel やスギ *Cryptomeria japonica* Don の見事な純林が各地でみうけられ四国地方の植相と非常に似かよっているため興味深く印象づけられた。

4. 温帯区 (1800m~3000m)

1800mをこえると常緑広葉樹が次第に姿を消し落葉広葉樹が中心となりその内にベニヒ *Chamaecyparis formosensis* Mats., タイワンツガ *Tsuga chinensis* Pritzel 等の針葉樹の巨木が所々にみうけられた。こ

の一帯は日本統治時代にこれらの針葉樹が盛んに伐採された所で現在は殆んどきりつくしてその数が極めて少く現在は専ら広葉樹の伐採にその主体がおかれ林業上重要な地域である。この地帯で特に目についた主な植物をあげると



樹令3,000年のベニヒ

- | | |
|-----------|--|
| アリサンアザミ | <i>Cirsium arisanense</i> Kitam. |
| ニヒタカコウゾリナ | <i>Picris morrisonensis</i> Hay. |
| タイワンヒヨドリ | <i>Eupatorium formosanum</i> Hay. |
| アキノキリンリウ | <i>Solidago virga-aurea</i> L. |
| ミヤマシャジン | <i>Adenophora polymorpha</i> Fisch. |
| ニヒタカシャジン | <i>Adenophora morrisonensis</i> Hay. |
| ホソバスヒカズラ | <i>Lonicera Henryi</i> Hemsl. |
| シマオニク | <i>Xylanche Kawakamii</i> G. Beck. |
| ニヒタカヨモギ | <i>Artemisia morrisonensis</i> Hay. |
| ヒナノウスツボ | <i>Scrophularia duplicato-serrata</i> Mak. |
| コシオガマ | <i>Phiheirospermum japonicum</i> Kanitz |
| アリサントムラソウ | <i>Salvia scapiformis</i> Hance var. <i>arisanensis</i> Kudo |
| ミヤマコケリンドウ | <i>Gentiana arisanensis</i> Hay. |
| ニヒタカリンドウ | <i>Gentiana scabrida</i> Hay. |
| ウラジロエゴノキ | <i>Styrax suberifolius</i> Hook et Arn. |
| ニヒタカコケモモ | <i>Vaccinium Merrillianum</i> Hay. |
| ギンリョウソウ | <i>Monotropa uniflora</i> L. |

タイワンミヤマタニタデ *Circaea minutula* Ohwi
 ニヒタカオトギリ *Hypericum Nagasawai* Hay.
 キンシバイ *Hypericum patulum* Thunb.
 ニヒタカツリフネ *Impatiens uniflora* Hay.
 クスノハカエデ *Acer oblongum* Wall.
 タカサゴウリカエデ *Acer morrisonensis* Hay.
 ニヒタカフウロ *Geranium Hayatanum* Ohwi
 アリサンナツナ *Cardamine arisanensis* Hay.
 アツバヤドリギ *Loranthus phoebe-formosanae*

Hay.

セイバンイラクサ *Girardinia formosana* Hay.
 タイワンシユウメイギク *Anemone vitiifolia* Buch-Hem.

ナンコチゴザサ *Poa nankoensis* Ohwi
 アリサンテンナンショウ *Arisaema formosana*

Hay.

アリサンムサシアブミ *Arisaema asisanensis* Hay.
 ホソバホトトギス *Tricyrtis formosana* Baker

ニヒタカラッキョウ *Allium morrisonense* Hay.
 タカサゴユリ *Lillium formossanum* Wall.

アリサンヤブラン *Ophipogon scaber* Ohwi
 ヒメヒオキズイセン *Tritonia crocosmaeflora*

Lemoine

阿里山周辺には古く薬草として日本から移入したデキタリス *Digitalis purpurea* L. が野生化して到る所で赤、白、桃色の色とりどりの花をさかせており又東埔(2500m) 附近の路傍にはレンゲソウ *Astragalus sinicus* L. が7月下旬に花盛りで奇異の感をうけた。

5. 亜寒帯区 (3000m~3800m)

大形の広葉樹が姿をけてしてタイワンアカマツ *Pinus massoniana* Don., ニヒタカトウヒ *Picea morrisonicola* Hay., ニヒタカトドマツ *Abies Kawakamii* Ito 等の針葉樹が生育して人工の加わらない針葉樹の原生林が到る所にみうけられた。その下草として特に目についた主な植物をあげると

ニヒタカコウモリ *Cacalia monantha* Hay.
 ニヒタカワガタ *Veronica morrisonicola* Hay.
 イッスンゴメグサ *Euphrasia Pumilio* Ohwi
 タイワンゴメグサ *Euphrasia Durietziana* Ohwi
 ニヒタカツルリンドウ *Crawfordia lanceolata* Hay.



ニヒタカトウヒの純林

ニヒタカアカバナ *Epilobium alpinum* L.
 タカサゴナナカマド *Sorbus randaiensis* Koidz.
 ニヒタカイバラ *Rosa laevigata* Mich.
 ニヒタカハタザオ *Arabis alpina* L.
 ニヒタカカラマツ *Thalictrum sessile* Hay.
 ナンコカラマツ *Thalictrum subescens* Ohwi
 ニヒタカキンボウゲ *Ranunculus geraniifolius*

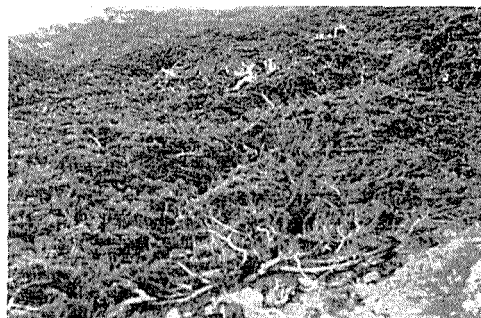
Hay.

ナガサハハコベ *Stellaria laxa* Mer.

この地帯は他との隔離が大であるためこの地域特有の固有種が数多く生育している。

6. 灌木帯区 (3800m~3900m)

3800mをこえると喬木限界に達し突如として日本内地のハイマツ帯と全く同一景観を示すニヒタカビヤクシン *Juniperus squamata* Lamb. が地表面をはって一面に繁茂しており、その間に次のような草丈の低いかれんな高山植物が花をつけていた



地面をはうニヒタカビヤクシンの純林

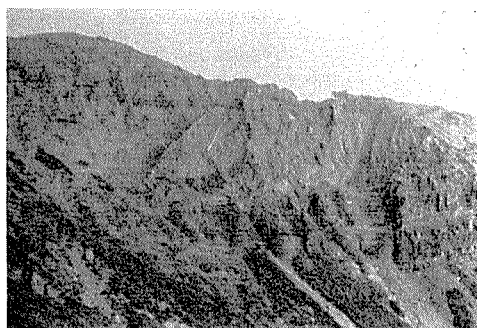
ニヒタカヤマハハコ *Anaphalis morrisonicola*

Hay.

- ニヒタカコゴメグサ *Euphrasia*
transmorvrisonensis Hay.
 コバカラマツ *Thalictrum myriophyllum*
 Ohwi
 ウスイロチドリ *Amitostigma alpestre* Fuku-
 yama
 ノウカウチドリ *Orchis Keraishiensis* Hay.

7. 岩石帯区 (3900m~3997m)

3900mをすぎると一面のガレキ地帯となり木本類の
 生育は全然みうけられず只岩場の隙間に僅かに次のよ
 うな乾生高山植物が生育しているに過ぎなかった
 ニヒタカウスユキ *Anaphalis morrisonicola* Hay.



頂上近くのガレキ帯 (左上が玉山(3997m)頂上)

- ニヒタカヒメレンゲ *Sedum microsepalum* Hay.
 ニヒタカマンネングサ *Sedum morrisonense* Hay.